

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用	
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置	
1	女 60代	気管支喘息 (網膜色素変 性症)	10mg 24日間	中毒性表皮壊死融解症	
				投与14日前	主訴は咳、痰、鼻水にて近医受診。聴診異常なし。X線検査異常なし。急性気管支炎の診断にて治療開始。
				投与開始日	風邪症状は改善するも咳がひどく、聴診にて喘鳴あり。気管支喘息と診断。本剤、ブデソニド、プレドニゾロン、イルソグラジンマレイン酸塩及びクラリスロマイシンの投与開始。
				投与5日目	クラリスロマイシンのみ投与中止。
				投与8日目	咳が完全に消失しないため、コデインリン酸塩水和物、プロクロルペラジンマレイン酸塩及び酸化マグネシウムの投与追加。
				投与14日目	イルソグラジンマレイン酸塩、コデインリン酸塩水和物、プロクロルペラジンマレイン酸塩及び酸化マグネシウムの投与中止。
				投与22日目	咳はかなり改善。皮疹が出現し拡大。セチリジン塩酸塩及びジフルプレドナートの投与開始。
				投与23日目	プレドニゾロンの投与中止。
				投与24日目 (投与中止日)	本剤、ブデソニド、セチリジン塩酸塩及びジフルプレドナートの投与中止。
				中止3日後	皮膚科を受診し、入院。プレドニゾロン50mg/日の内服開始。皮膚生検の実施。表皮壊死の所見あり。
				日付不明	38度以上の発熱あり。 皮膚所見：10%以上の多形紅斑、水疱・びらん、ニコルスキー現象あり。 粘膜所見：結膜充血、眼脂、口唇びらん、陰部びらんを認める。 単純ヘルペスウイルス感染は不明、マイコプラズマ感染なし。単純ヘルペスウイルス2型-IgG抗体 (EIA法) 46.7。多臓器不全なし。
				中止9日後	症状軽快しないため、二重膜ろ過血漿交換を施行(2日間)。
				日付不明	その後、ゆっくりと症状は軽快。
				中止86日後	退院。
日付不明	DLST検査の実施。本剤の結果はS.I.114%で陰性。				
併用薬：ブデソニド、プレドニゾロン、イルソグラジンマレイン酸塩、クラリスロマイシン、コデインリン酸塩水和物、プロクロルペラジンマレイン酸塩、酸化マグネシウム、セチリジン塩酸塩、ジフルプレドナート					